



富山県立大学概要 2026

－ Outline of TPU －

公立大学法人富山県立大学

C o n t e n t s

- 法人概要
- 沿革、歴代学長
- 法人組織図
- 役職員
- 附属施設等の概要
- 教員数、学生数
- 入学試験結果
- 卒業・修了後の進路、就職状況
- 産官学連携・地域貢献活動
- 国際交流
- 財務状況
- 学内マップ
- 最近の特記事項

法人概要

1 目 的

公立大学法人富山県立大学は、地方独立行政法人法に基づき、大学を設置し、及び管理することにより、富山県における知の拠点として、広く知識と技術を授け、未来を志向した高度な専門の学術を深く教授研究するとともに、特色ある教育を行い、人間性豊かな創造力と実践力を兼ね備えた、地域及び社会に有為な人材を育成し、併せて、広く開かれた大学として、優れた教育研究の成果を地域や社会に還元し、もって富山県はもとより我が国と世界の学術文化の向上と地域及び産業の振興、保健及び医療の充実、社会の発展に寄与する。

2 業 務

- (1) 県立大学を設置し、これを運営すること。
- (2) 学生に対し、修学、進路選択及び心身の健康等に関する相談その他の援助を行うこと。
- (3) 法人以外の者から委託を受け、又はこれと共同して行う教育研究の実施その他の法人以外の者との連携による教育研究活動を行うこと。
- (4) 公開講座の開設その他の学生以外の者に対する学習の機会を提供すること。
- (5) 県立大学における教育研究の成果を普及し、及びその活用を促進すること。
- (6) 前各号に掲げる業務に附帯する業務を行うこと。

3 事務所・校地の所在地

- 【射水キャンパス】 富山県射水市黒河 5180 番地
【富山キャンパス】 富山県富山市西長江二丁目 2 番 78 号

4 資本金の状況

6,614,440,000 円 (全額 富山県出資)

5 校地・建物面積

◆校地面積

- 【射水キャンパス】 約 19.8ha (学校敷地 11.2ha、運動場その他 8.6ha)
【富山キャンパス】 約 1.2ha (学校敷地 1.2ha)

◆建物面積

- 【射水キャンパス】 約 70 千㎡ (本部棟、中央棟、講義棟、研究棟、合同棟、生物工学科棟、図書館、体育館、大谷講堂、DX教育研究センター、情報工学研究棟等)
【富山キャンパス】 約 15 千㎡ (教育棟、エントランス棟、研究棟、図書館棟)

6 基本目標 (公立大学法人富山県立大学第 2 期中期目標<令和 3～8 年度>)

- (1) 学生を大きく伸ばす教育力の高い大学
学生の課題解決力を身につける実践重視の教育を推進し、地域社会はもとより国際社会で活躍できる有為な人材を育成する。
- (2) 未来を志向した高度な研究を推進する大学
基盤的・先端的な研究を推進し、県内産業、保健及び医療の発展はもとより国内と世界の学術の向上に貢献する。
- (3) 広く開かれ地域社会に貢献する大学
富山県における知の拠点として、優れた教育研究成果を広く地域社会に還元し、地域及び産業の振興並びに保健及び医療の充実に貢献する。

○建学の理念

- (1) 富山県の発展をめざした県民の大学
- (2) 未来を志向した大学
- (3) 特色ある教育をめざした大学

○大学の設置目的

- 1 次代を担う青年の多様な個性の開発を促し、視野の広い、人間性豊かな、創造力と実践力を兼ね備えた、地域及び社会に有為な人材を育成。
- 2 学術の中心として広く知識、技術を授け、未来を志向し、高度な専門の学芸を深く教授研究。
- 3 学術、産業及び医療との有機的連携を進めるとともに、富山県民の本学に対する地域振興の原動力としての期待や生涯学習に対する多様な要請に応え、科学技術の新たな拠点として、学術文化の向上と産業及び医療の振興発展に寄与。

7 教育の特色

【工学部】

(1) 少人数によるゆきとどいた教育

- ① 教員1人当たり学生数10人
- ② 全ての学年における少人数ゼミの導入

(2) 人間性豊かな技術者の育成につながるカリキュラム編成

- ① 低学年における専門科目を拡大する、くさび型カリキュラムの実施
- ② 人間的成長に応じた高学年次での教養教育科目の開講

(3) 基礎知識・基礎技術の確実な修得

基礎科目、実験・演習の重視

(4) 学部・大学院（博士前期課程）を通じた連携教育体制の確立

6年一貫教育を意識した体系的カリキュラム

(5) 学生の自立を促すキャリア教育の実施

- ① 学生のキャリア形成につながる実践的で体系的な教育プログラムを、入学から卒業まで展開
- ② キャリアセンターによるきめ細やかな指導・助言

(6) 環境リテラシーを育む環境教育プログラムの実施

持続可能な社会の実現に向けて環境への幅広い視点と倫理観（環境リテラシー）を備えた工学技術者を育成するため、導入教育から専門教育に至るまで体系的な環境教育プログラムを展開

【情報工学部】

(1) データサイエンスの専門教育

データサイエンスに関する様々なカリキュラムを導入した専門人材の育成

(2) 少人数によるゆきとどいた教育

全ての学年に少人数ゼミを導入し、一人ひとりにゆきとどいた教育を行い、基礎学力の向上や人間力・実践力・創造力を養成

(3) デザイン思考による課題発見解決力

利用者の潜在的課題を顕在化させ、仮説・検証を繰り返し試行することで解決策を発見する思考法（デザイン思考）を身につけ、これまでにない視点・柔軟な発想力、多様性を備えた真の課題解決に取り組む技術開発者・研究者の育成

(4) 企業の技術者との連携授業

企業や官庁などで活躍している方々を外部講師として招いた講義の実施

(5) 人間性豊かな技術者の育成につながるカリキュラム編成

- ① 低学年における専門科目を拡大する、くさび型カリキュラムの実施
- ② 人間的成長に応じた高学年次での教養教育科目の開講

(6) 学生の自立を促すキャリア教育

- ① 学生のキャリア形成につながる実践的で体系的な教育プログラムを実施
- ② キャリアセンターによるきめ細やかな指導・助言

【看護学部】

(1) 「自ら学ぶ力」を身につける

- ① 少人数によるグループ学修やアクティブラーニングなど、主体性を持って協力して課題に対応する学び方を多く取り入れる。
- ② eラーニング教材を用いて、学生が自ら学ぶ姿勢を支援

(2) 多様な実習の場で実践力をつける

富山県立中央病院をはじめ、県内の公的病院や訪問看護ステーション、様々な保健医療福祉施設で地域に密着した実習を行う。

(3) 工学的な視点を「看護」の世界へ

工学的視点を取り入れた人にやさしい看護学について学び、新時代の看護師を目指す。

(4) 地域共生ゼミで地域の課題解決に向けて取り組む

- ① 多様な視点から考え、創造し、表現する力を育てる。
- ② 地域に存在する課題とその解決策を探究する。

【文部科学省：大学教育再生の戦略的推進の採択状況】

(1) 現代的教育ニーズ取組支援プログラム（現代GP）

① 地域連結型「知の結集」工学教育プログラム [H16～18]

地域活性化への貢献をテーマに、産学官が連携して工学教育を実施。

- ・卒業研究テーマの募集 ・修士論文テーマの提案
- ・MOT（技術経営）や知的財産に関する新講義の開講
- ・「論文準修士制度」の創設（H18.4～）

② 学生の自立を促す統合型キャリア増進プラン [H18～20]

学生の高い職業意識や幅広い人間形成を支援する。

- ・計画的なキャリア形成科目群の構築
- ・総合的なキャリア活動実績評価制度の導入（キャリアポイント、キャリアパスポート）

③ 富山型環境リテラシー教育モデルの構築 [H19～21]

持続可能な社会の実現に向け、環境リテラシーを備えた環境調和型技術の創造者を育成するとともに、あらゆる高等教育機関で実施されるべき環境教育モデルを提示する。

- ・恵まれた自然環境と公害等環境問題が凝縮された富山県の風土環境の活用
- ・小規模大学の特性を生かした全学横断型教育の試行
- ・導入教育から専門的教育まで体系化・統合化した環境教育プログラムの実施
- ・学生の主体的な学習を促す教育システムの提供（キャンパスフィールド活動等）

(2) 「大学生の就業力育成支援事業（就業力支援G P）」

企業社会で活躍できる骨太人材育成プランの構築 [H22～23]

- ・学生の自己開発力を強化するキャリアドックの開発・実施
- ・学生の社会性・実践力を涵養するキャリア教育の展開
- ・学生の就業力・生きる力を増進する支援ネットワーク体制の整備

(3) 「産業界のニーズに対応した教育改善・充実体制整備事業」

中部圏の地域・産業界との連携を通じた教育改革力の強化 [H24～26]

中部圏 23 大学の中部地域大学グループと連携し、アクティブラーニングを活用し、地域・産業界との連携を通して、産業界等のニーズに対応した人材を育成する。

(4) 特色ある大学プログラム（特色G P）

フィールド実習をコアとした流域環境教育 [H17～18]

水環境に恵まれた本県の特性を生かして、フィールド実習をコアとした流域環境教育を実施。
(旧短期大学部)

(5) 大学院教育改革支援プログラム（大学院G P）

環境調和型高度ものづくり能力の育成 [H19～21]

環境に配慮した安全・安心な社会の構築を目指したより高度な専門教育と研究を展開し、「環境調和型高度ものづくり能力」を備えた人材の育成を図る。

(工学研究科機械システム工学専攻)

- ・高度な機械工学分野の専門能力を有する人材の育成
- ・資源循環型社会の実現に向け、今日的課題を解決できる人材の育成
- ・幅広い視野と豊かなコミュニケーション能力を有する人材の育成

(6) 地（知）の拠点整備事業

「工学心」で地域とつながる「地域協働型大学」の構築 [H25～29]

地域に役立つ技術者マインド「工学心」を持ち、地域課題に取り組む学生の育成や地域を志向した研究・社会貢献を行う「地域協働型大学」の構築を目指す。

- ・全学的な取組み：新たな学長直属組織（COC推進本部）の設置
- ・自治体との連携：富山県、射水市をはじめ既に本学と連携実績のある市町との連携強化による事業の推進
- ・教育：学生の主体的な社会参画や課題解決力の育成を図るため、地域との交流・対話・協働の促進を目指すカリキュラムの見直しやサポート体制の整備
- ・研究：地域課題を志向した研究の推進のため、教員の意識改革と学生の参画促進
- ・社会貢献：生涯学習や企業人材育成支援事業の充実・発展

【文部科学省：大学における医療人の養成の採択状況】

(1) ウィズコロナ時代の新たな医療に対応できる医療人材養成事業（看護学部）[R3～R4]

新型コロナウイルス感染症の影響により、臨地実習での学生の人数制限や時間短縮等が余儀なくされる中で、デジタル技術を活用した下記の取組みを行うことにより、教育の質を保証するとともに、学生の体験不足を補い、高度な看護人材を継続的に養成することを目指す。

- ・各臨地実習に即した情報を登録した電子カルテシステムを完成させ、ライフサイクルに応じて成長するシミュレーション患者を用いた看護展開を学修
- ・手術室における看護師の一連の動きをアバターとして体験できるVR手術室を作成し、手術室での看護をリアルに学修
- ・患者の術後創部と摘出検体を3Dプリンターで作成し、創部観察や処置を行うことで実体験を補足

沿革

- 昭37. 4月 富山県立大谷技術短期大学 開学（農業機械科、機械科、応用数学科設置）
- 昭47. 4月 富山県立技術短期大学に名称変更
- 平 2. 4月 富山県立大学開学【日本海側初の工学系公立大学】
（機械システム工学科、電子情報工学科設置）
短期大学部を併設（農業技術学科、環境工学科設置）
- 平 4. 10月 パイオテクノロジーの研究拠点として生物工学研究センター開所
- 平 6. 4月 大学院修士課程（機械システム工学専攻、電子情報工学専攻）開設
- 平 8. 4月 大学院博士後期課程（機械システム工学専攻、電子情報工学専攻）開設
大学院修士課程（生物工学専攻）開設
- 平10. 4月 大学院博士後期課程（生物工学専攻）開設
短期大学部専攻科（生物資源専攻、地域環境工学専攻）開設
- 平15. 4月 短期大学部の農業技術学科と環境工学科を再編し、生物資源学科と環境システム工学科を設置
- 平16. 4月 地域連携センター開所
- 平17. 4月 短期大学部専攻科（環境システム工学専攻）開設
- 平18. 4月 工学部に新たに生物工学科を設置するとともに、機械システム工学科と電子情報工学科の2学科を、機械システム工学科、知能デザイン工学科及び情報システム工学科の3学科に再編
併せて、大学院博士前期・後期課程を3専攻から4専攻に再編
- 平19. 3月 短期大学部生物資源学科廃止
- 平19. 4月 キャリアセンター開所
- 平20. 3月 短期大学部専攻科（生物資源専攻）廃止
- 平21. 4月 工学部環境工学科開設
- 平22. 3月 短期大学部環境システム工学科廃止
- 平24. 3月 短期大学部環境システム専攻廃止
短期大学部閉学
- 平25. 4月 大学院博士前期課程（環境工学専攻）開設
- 平27. 4月 公立大学法人富山県立大学設置（地方独立行政法人化）
大学院博士後期課程（環境工学専攻）開設
- 平28. 4月 機械システム工学科及び知能デザイン工学科の入学定員の増
- 平29. 4月 工学部医薬品工学科開設
情報システム工学科及び環境工学科の名称を、電子・情報工学科と環境・社会基盤工学科にそれぞれ変更し、あわせて入学定員を増員
- 平30. 4月 知能デザイン工学科の名称を知能ロボット工学科に変更
- 平31. 4月 看護学部（看護学科）開設
工学部教養教育センター設置
生物工学研究センターの名称を生物・医薬品工学研究センターに変更
- 令 2. 4月 工学部電気電子工学科及び情報システム工学科開設
- 令 3. 4月 大学院博士前期課程の5専攻全ての入学定員を増員及び4専攻の名称変更
大学院博士後期課程の5専攻を廃止し1専攻（総合工学専攻）に再編
- 令 4. 4月 DX教育研究センター開所
- 令 5. 4月 大学院看護学研究科修士課程（看護学専攻）及び看護学専攻科（公衆衛生看護学専攻、助産学専攻）を開設
- 令 6. 4月 情報工学部（データサイエンス学科、情報システム工学科、知能ロボット工学科）開設
- 令 7. 4月 看護学研究科博士後期課程設置
看護学研究科修士課程を博士前期課程に課程変更
- 令 8. 4月 大学院情報工学研究科設置（博士前期課程3専攻及び博士後期課程1専攻）

富山県立大学 歴代学長

初代	藤井 澄二	（平成2年4月1日～平成9年3月31日）
第2代	川端 昭	（平成9年4月1日～平成13年3月31日）
第3代	中島 恭一	（平成13年4月1日～平成19年3月31日）
第4代	田中正人	（平成19年4月1日～平成23年3月31日）
第5代	前澤 邦彦	（平成23年4月1日～平成25年3月31日）
第6代	石塚 勝	（平成25年4月1日～平成31年3月31日）
第7代	下山 勲	（平成31年4月1日～令和7年3月31日）
第8代	小笠原 司	（令和7年4月1日～現在）



役職員

(令和8年7月1日現在)

理事長	山本 修
副理事長 学 長	小笠原 司
理 事 副 学 長	鳥 山 朋 二
理 事 事務局長	永 原 和 久
理 事 (非常勤)	高 木 章 裕
理 事 (非常勤)	三 吉 勇 人
理 事 (非常勤)	小 林 聖 子
監 事	林 衛
監 事	堀 仁 志

【経営審議会】

理事長	山本 修
副理事長	小笠原 司
理 事	鳥 山 朋 二
理 事	永 原 和 久
理 事	高 木 章 裕
理 事	三 吉 勇 人
理 事	小 林 聖 子
外部有識者	蔵 堀 祐 一
外部有識者	村 上 美也子
外部有識者	岡 本 里 美

【教育研究審議会】

学 長	小笠原 司	
副 学 長	教育研究 担当	坂 村 芳 孝
副 学 長	情報戦略 担当	鳥 山 朋 二
副 学 長	コンプライアンス 担当	岡 本 恵 里
工学部長	伊 藤 始	
工学研究科長	高 木 昇	
情報工学部長	高 木 昇	
情報工学研究科長	松 井 弘 美	
看護学部長	松 井 弘 美	
看護学研究科長	清 水 暢 子	
看護学専攻科長	清 水 暢 子	
学生部長	神 谷 和 秀	
入試・学生募集部長	五十嵐 康 弘	
附属図書館長	平 野 嘉 孝	
地域連携センター所長	堀 川 教 世	
キャリアセンター所長	中 川 慎 二	
情報基盤センター所長, 学 長補佐	大 寺 康 夫	
生物・医薬品工学研究セン ター所長	加 藤 康 夫	
DX教育研究センター所 長, 学長補佐	唐 山 英 明	
学長補佐	米 田 英 伸	
学長補佐	木 谷 尚 美	
事務局長	永 原 和 久	

【工学部】

工学部長	伊 藤 始
教養教育センター長	室 裕 司
学科長 (機械・FA工学科)	鈴 木 真由美
学科長 (電気電子工学科)	石 坂 圭 吾
学科長 (機械・社会基盤工学科)	古 谷 元
学科長 (生物工学科)	金 井 保
学科長 (医薬品工学科)	村 上 達 也

【情報工学部】

情報工学部長	高 木 昇
学科長 (データサイエンス学科)	高 野 博 史
学科長 (情報システム工学科)	岩 本 健 嗣
学科長 (知能ロボット工学科)	松 本 公 久

【看護学部】

看護学部長	松 井 弘 美
看護学科長	木 谷 尚 美
看護学生科長	比 嘉 肖 江
看護研究・地域連携科長	越 田 美穂子

【大学院】

工学研究科長	伊 藤 始
専攻長 (機械システム工学専攻)	鈴 木 真由美
専攻長 (電気電子工学専攻)	石 坂 圭 吾
専攻長 (機械・社会基盤工学専攻)	古 谷 元
専攻長 (生物・医薬品工学専攻)	金 井 保
専攻長 (総合工学専攻)	石 坂 圭 吾
情報工学研究科長	高 木 昇
専攻長 (データサイエンス専攻)	高 野 博 史
専攻長 (情報システム工学専攻)	岩 本 健 嗣
専攻長 (知能ロボット工学専攻)	松 本 公 久
専攻長 (情報工学専攻)	高 野 博 史
看護学研究科長	松 井 弘 美

【看護学専攻科】

看護学専攻科長	清 水 暢 子
公衆衛生看護学専攻長	清 水 暢 子
助産学専攻長	松 井 弘 美

【事務局】

事務局長	永 原 和 久
事務局次長 経営企画課長	吉 澤 泰 樹
富山キャンパス事務部長 管理課長	喜 多 美 月
事務局業務改善推進監	波 能 映 子
教務課長	牧 野 充 弘
教務課課長 (学生募集担当)	野 田 真
教務学生課長	山 元 真 弓

附属施設等の概要

(令和8年5月1日現在)

●附属図書館射水館 (HISS NEXT LIBRARY)



射水館には理工系の専門書を中心に約18万冊の蔵書があり、学習コーナーは毎日多くの学生が利用している。館内にはキャレルや隠れ家風の閲覧席もあり、学生に学習の場を提供している。

●附属図書館富山館



富山館には看護学系の専門書を中心に約2万冊の蔵書があり、多くの学生が利用している。館内にはアクティブラーニングスペースや閲覧席もあり、学生に学習の場を提供している。

●地域連携センター



大学の知的資源を積極的に地域社会に還元することを目的とし、地元産業界との産学連携や地域交流を一体的に行っている。

●キャリアセンター



富山県立大学の理念に沿って、実践的かつ体系的なキャリア形成のための教育・支援を行い、学生の高い職業意識・能力の育成と、学生の就職支援を行っている。

●情報基盤センター



高度な教育研究をバックアップするため、学内のネットワーク環境を整備している。また、共同利用PCを射水キャンパスに80台、富山キャンパスに24台設置している。

●生物・医薬品工学研究センター



バイオテクノロジーに関する実用化に向けた基礎的研究及び応用研究を推進し、もってバイオテクノロジーに係る研究水準の向上を図るとともに、その成果及び技術を広く社会に還元する、という目的の下、県内企業や学内外の研究組織等との横断的な研究開発に積極的に関与している。

●パステル工房



子供がパステルを使って好きな絵を描くように、自由で柔軟な発想でものづくりに取り組んでほしい…、というのが命名の由来。実践的なものづくり教育・支援の拠点として活用されている。

●DX教育研究センター



デジタル技術を活用することによって社会に変革をもたらし、人々の暮らしをより良くするDXに取り組むことにより、地域社会はもとより、広く人々の生活を支援するための人材教育や高度な研究に取り組んでいる。

教員数、学生数

(令和8年5月1日現在)

●教員数	学長	教 員					計
		教授	准教授	講師	助教	助手	
学長	1 (0)						1 (0)
工学部							
教養教育センター		9 (0)	17 (6)	6 (5)	0 (0)		32 (11)
機械システム工学科		8 (1)	6 (0)	5 (2)	0 (0)		19 (3)
電気電子工学科		5 (0)	6 (0)	2 (1)	2 (1)		15 (2)
環境・社会基盤工学科		8 (0)	9 (3)	2 (0)	0 (0)		19 (3)
生物工学科		7 (0)	1 (0)	7 (0)	3 (0)		18 (0)
医薬品工学科		7 (0)	3 (1)	2 (0)			12 (1)
工学部 計		44 (1)	42 (10)	24 (8)	5 (1)		115 (20)
情報工学部							
データサイエンス学科		5 (0)	3 (0)	2 (0)	2 (1)		12 (1)
情報システム工学科		6 (0)	2 (0)	4 (0)	3 (0)		15 (0)
知能ロボット工学科		6 (0)	7 (0)	5 (0)	3 (1)		21 (1)
情報工学部 計		17 (0)	12 (0)	11 (0)	8 (2)		48 (2)
看護学部							
看護学科		10 (9)	9 (6)	15 (12)	19 (15)		53 (42)
合 計	1 (0)	71 (10)	63 (16)	50 (20)	32 (18)	0 (0)	217 (64)

※ () 内は女性教員で内数。大学院工学研究科教員は工学部教員のうち89名が兼務。大学院情報工学研究科教員は工学部及び情報工学部教員のうち51名が兼務。大学院看護学研究科教員は看護学部教員のうち27名が兼務。

●学生数		学生定員		学生現員					
		入学定員	収容定員	1年生	2年生	3年生	4年生	計	
工学部	機械システム工学科	60	240	60 (4)	61 (3)	66 (4)	69 (2)	256 (13)	
	知能ロボット工学科	—	—	—	—	—	90 (12)	90 (12)	
	電気電子工学科	45	180	49 (4)	50 (4)	49 (0)	53 (2)	201 (10)	
	情報システム工学科	—	—	—	—	—	81 (3)	81 (3)	
	環境・社会基盤工学科	55	220	57 (18)	60 (15)	64 (13)	63 (16)	244 (62)	
	生物工学科	40	160	40 (25)	44 (26)	40 (25)	40 (23)	164 (99)	
	医薬品工学科	35	140	35 (20)	35 (25)	34 (22)	41 (21)	145 (88)	
	計	235	940	241 (71)	250 (73)	253 (64)	437 (79)	1,181 (287)	
情報工学部	データサイエンス学科	40	160	40 (6)	40 (4)	40 (6)	—	120 (16)	
	情報システム工学科	60	240	65 (5)	61 (4)	68 (6)	—	194 (15)	
	知能ロボット工学科	60	240	64 (6)	67 (8)	62 (6)	—	193 (20)	
	計	160	640	169 (17)	168 (16)	170 (18)	0 (0)	507 (51)	
看護学部	看護学科	120	480	123 (109)	125 (114)	119 (111)	119 (112)	486 (446)	
大学院工学研究科	博士前期課程	機械システム工学専攻	24	48	28 (1)	33 (0)			61 (1)
		知能ロボット工学専攻	—	—	—	33 (4)			33 (4)
		電子・情報工学専攻	—	—	—	35 (1)			35 (1)
		電気電子工学専攻	15	30	16 (1)	—			16 (1)
		環境・社会基盤工学専攻	15	30	18 (6)	16 (3)			34 (9)
		生物・医薬品工学専攻	30	60	46 (31)	39 (22)			85 (53)
		計	84	168	108 (39)	156 (30)			264 (69)
	博士後期課程	総合工学専攻	6	18	6 (3)	10 (3)	9 (1)		25 (7)
大学院研究情報工	課博士前期	データサイエンス専攻	14	28	12 (0)	—			12 (0)
		情報システム工学専攻	24	48	27 (3)	—			27 (3)
		知能ロボット工学専攻	24	48	31 (1)	—			31 (1)
		計	62	124	70 (4)	0 (0)			70 (4)
	博士後期課程	情報工学専攻	4	12	3 (1)	—	—		3 (1)
看護科学研究科	博士前期課程	看護学専攻	10	20	6 (5)	13 (12)			19 (17)
	博士後期課程	看護学専攻	2	6	3 (1)	2 (1)			5 (2)
	看護学専攻								
看護科学専攻	公衆衛生看護学専攻	15	15	16 (15)					16 (15)
	助産学専攻	10	10	9 (9)					9 (9)
	計	25	25	25 (24)					25 (24)
合 計		708	2,433	754 (274)	724 (249)	551 (194)	556 (191)	2,585 (908)	

※ () 内は女性で内数。

●教員一人あたり学生数

工学部	10.3 人	(学生数 1,181 / 教員数 115)	工学研究科	3.2 人	(学生数 289 / 教員数 89)
情報工学部	10.6 人	(学生数 507 / 教員数 48)	情報工学研究科	1.4 人	(学生数 73 / 教員数 51)
看護学部	9.2 人	(学生数 486 / 教員数 53)	看護学研究科	0.9 人	(学生数 24 / 教員数 27)

注) 学長は、教員数に含まない。

入学試験結果（令和8年度入試）

【工 学 部】

(人、倍)									
選抜区分		募集人員	志願者数	受験者数 (a)	合格者数 (b)	入学者数 (c)	競争倍率 (a/b)	(参考) 前年度 競争倍率	
学校推薦型選抜	機械システム工学科	14	19	19	14	14	1.4	1.9	
	電気電子工学科	11	12	12	11	11	1.1	0.5	
	環境・社会基盤工学科	14	17	17	14	14	1.2	1.2	
	生物工学科	11	25	25	11	11	2.3	1.3	
	医薬品工学科	10	23	23	10	10	2.3	1.9	
	計	60	96	96	60	60	1.6	1.4	
一般選抜	前期日程	機械システム工学科	39	108	100	55	44	1.8	2.5
		電気電子工学科	29	73	65	42	36	1.5	2.8
		環境・社会基盤工学科	36	141	132	53	43	2.5	1.8
		生物工学科	26	73	69	33	27	2.1	1.2
		医薬品工学科	23	76	70	31	24	2.3	1.7
		計	153	471	436	214	174	2.0	2.1
	後期日程	機械システム工学科	7	40	40	9	2	4.4	5.4
		電気電子工学科	5	10	10	5	2	2.0	10.4
		環境・社会基盤工学科	5	26	26	5	0	5.2	11.6
		生物工学科	3	21	21	9	2	2.3	17.7
		医薬品工学科	2	17	17	8	1	2.1	12.5
		計	22	114	114	36	7	3.2	10.3
私費外国人留学生入試	機械システム工学科	若干名	1	1	0	0	—	—	
	電気電子工学科	若干名	1	1	0	0	—	1.0	
	環境・社会基盤工学科	若干名	0	0	0	0	—	—	
	生物工学科	若干名	0	0	0	0	—	—	
	医薬品工学科	若干名	0	0	0	0	—	—	
	計		2	2	0	0	—	3.0	
計	機械システム工学科	60	168	160	78	60	2.1	2.7	
	電気電子工学科	45	96	88	58	49	1.5	3.0	
	環境・社会基盤工学科	55	184	175	72	57	2.4	2.4	
	生物工学科	40	119	115	53	40	2.2	2.3	
	医薬品工学科	35	116	110	49	35	2.2	2.2	
	計	235	683	648	310	241	2.1	2.5	

【 情 報 工 学 部 】

								(人、倍)	
選抜区分		募集人員	志願者数	受験者数 (a)	合格者数 (b)	入学者数 (c)	競争倍率 (a/b)	(参考) 前年度 競争倍率	
学校推薦型選抜	データサイエンス学科	11	19	19	11	11	1.7	1.7	
	情報システム工学科	15	26	26	15	15	1.7	2.8	
	知能ロボット工学科	15	9	9	13	13	0.7	1.0	
	計	41	54	54	39	39	1.4	1.9	
一般選抜	前期日程	データサイエンス学科	26	138	125	38	29	3.3	0.9
		情報システム工学科	40	138	127	53	49	2.4	2.2
		知能ロボット工学科	40	91	81	59	50	1.4	1.3
		計	106	367	333	150	128	2.2	1.5
	後期日程	データサイエンス学科	3	25	25	3	0	8.3	8.0
		情報システム工学科	5	72	72	5	1	14.4	4.9
		知能ロボット工学科	5	56	56	5	0	11.2	6.8
		計	13	153	153	13	1	11.8	6.1
私立費外国人留学試験	データサイエンス学科	若干名	0	0	0	0	—	—	
	情報システム工学科	若干名	0	0	0	0	—	—	
	知能ロボット工学科	若干名	3	3	1	1	3.0	2.0	
	計		3	3	1	1	3.0	3.0	
計	データサイエンス学科	40	182	169	52	40	3.3	1.5	
	情報システム工学科	60	236	225	73	65	3.1	2.6	
	知能ロボット工学科	60	159	149	78	64	1.9	1.6	
	計	160	577	543	203	169	2.7	1.9	

【看護学部】

		(人、倍)						
選抜区分		募集人員	志願者数	受験者数 (a)	合格者数 (b)	入学者数 (c)	競争倍率 (a/b)	(参考) 前年度 競争倍率
学校推薦型選抜	看護学科	48	89	89	48	48	1.9	2.2
一般選抜	前期日程 看護学科	62	139	129	68	62	1.9	2.3
	後期日程 看護学科	10	134	34	14	13	2.4	3.7
計		120	362	252	130	123	1.9	2.4

●出身地域別の状況（令和8年度入試）

【工学部】

都道府県	志願者数 (名)	入学者 (名)	入学者に占 める割合%	都道府県	志願者数 (名)	入学者 (名)	入学者に占 める割合%
富山県	216	101	41.9	三重県	27	6	2.5
石川県	84	36	14.9	群馬県	7	5	2.1
愛知県	120	35	14.5	その他	115	23	9.5
岐阜県	65	20	8.3				
静岡県	24	8	3.3				
福井県	25	7	2.9	計	683	241	100.0

【情報工学部】

都道府県	志願者数 (名)	入学者 (名)	入学者に占 める割合%	都道府県	志願者数 (名)	入学者 (名)	入学者に占 める割合%
富山県	150	66	39.1	長野県	27	4	2.4
愛知県	117	28	16.6	三重県	22	4	2.4
岐阜県	70	22	13.0	その他	82	16	9.5
石川県	70	17	10.1				
静岡県	15	7	4.1				
新潟県	24	5	3.0	計	577	169	100.1

【看護学部】

都道府県	志願者数 (名)	入学者 (名)	入学者に占 める割合%	都道府県	志願者数 (名)	入学者 (名)	入学者に占 める割合%
富山県	203	73	59.3				
岐阜県	41	16	13.0				
新潟県	15	6	4.9				
石川県	18	5	4.1				
その他	85	23	18.7				
				計	362	123	100.0

●令和8年度一般選抜成績（合格者）

前期日程									
学 部・学 科		総合点							
		満点	最高点	最低点	平均点				
工 学 部	機械システム工学科	1,150	719	538	599.6				
	電気電子工学科	1,150	745	519	585.8				
	環境・社会基盤工学科	1,200	751	568	624.3				
	生物工学科	1,150	727	608	640.2				
	医薬品工学科	1,150	803	660	710.1				
情 報 工 学 部	データサイエンス学科	1,200	785	591	649.5				
	情報システム工学科	1,200	755	602	662.1				
	知能ロボット工学科	1,200	736	541	593.9				
看護学部	看護学科	1,100	750	635	667.2				
学 部・学 科		大学入学共通テスト				個別試験			
		満点	最高点	最低点	平均点	満点	最高点	最低点	平均点
工 学 部	機械システム工学科	700	463	293	371.0	450	303	149	228.6
	電気電子工学科	700	461	319	370.8	450	303	117	215.0
	環境・社会基盤工学科	700	456	302	365.9	500	355	189	258.4
	生物工学科	750	478	356	405.8	400	278	189	234.3
	医薬品工学科	750	528	415	452.2	400	303	218	257.9
情 報 工 学 部	データサイエンス学科	750	516	350	406.4	450	326	185	243.1
	情報システム工学科	750	468	355	424.1	450	311	170	238.0
	知能ロボット工学科	750	456	313	390.1	450	311	118	203.8
看護学部	看護学科	800	525	394	456.4	300	256	177	210.8

後期日程									
学 部・学 科		総合点							
		満点	最高点	最低点	平均点				
工 学 部	機械システム工学科	—	—	—	—				
	電気電子工学科	—	—	—	—				
	環境・社会基盤工学科	—	—	—	—				
	生物工学科	—	—	—	—				
	医薬品工学科	—	—	—	—				
情 報 工 学 部	データサイエンス学科	—	—	—	—				
	情報システム工学科	—	—	—	—				
	知能ロボット工学科	—	—	—	—				
看護学部	看護学科	1,000	678	586	628.9				
学 部・学 科		大学入学共通テスト				個別試験			
		満点	最高点	最低点	平均点	満点	最高点	最低点	平均点
工 学 部	機械システム工学科	1,250	813	700	766.4	—	—	—	—
	電気電子工学科	1,250	646	532	580.2	—	—	—	—
	環境・社会基盤工学科	1,250	965	845	883.4	—	—	—	—
	生物工学科	1,150	853	655	744.3	—	—	—	—
	医薬品工学科	1,150	877	766	822.4	—	—	—	—
情 報 工 学 部	データサイエンス学科	1,300	882	831	857.3	—	—	—	—
	情報システム工学科	1,300	867	829	850.0	—	—	—	—
	知能ロボット工学科	1,300	924	813	838.2	—	—	—	—
看護学部	看護学科	800	511	439	472.6	200	174	137	156.4

卒業・修了後の進路、就職状況

●卒業後の進路状況（学部生）（令和7年度）

【工学部】

（令和8年3月31日現在）

区 分	卒業生		うち県内へ		うち県外へ	
	人数(人)	割合	人数(人)	割合	人数(人)	割合
進 学	183	51.8%	176	96.2%	7	3.8%
就 職	168	47.6%	100	59.5%	68	40.5%
そ の 他	2	0.6%	0	0.0%	2	100.0%
計	353	100.0%	276	78.2%	77	21.8%

●卒業・修了者の就職状況（令和7年度）

（令和8年3月31日現在）

	工 学 部	大学院工学研究科	計
就職希望者数	169 人	140 人	309 人
就職者数	168 人	139 人	307 人
就職率	99.4 %	99.3 %	99.4 %
うち県内就職率	59.5 %	27.3 %	45.0 %

●就職者の県内定着状況（過去5か年）

（人）

年度	県内出身者			県外出身者			就職者 合計			県内就職率		
	県内就職	県外就職	計	県内就職	県外就職	計	県内就職	県外就職	計	県内出身	県外出身	全体
令和7年度	109	36	145	29	133	162	138	169	307	75.2%	17.9%	45.0%
令和6年度	87	32	119	23	149	172	110	181	291	73.1%	13.4%	37.8%
令和5年度	100	38	138	26	126	152	126	164	290	72.5%	17.1%	43.4%
令和4年度	89	27	116	33	150	183	122	177	299	76.7%	18.0%	40.8%
令和3年度	80	35	115	33	129	162	113	164	277	69.6%	20.4%	40.8%

●出身地と就職先所在地（令和7年度）

出身地 \ 就職先	北海道・東北	関東	甲信越	富山	石川・福井	東海	近畿	中国・四国・九州	国外	計
北海道・東北	3									3
関東	4	6	8	21	7	21	4	2		73
甲信越			5							5
富山	1	1	4	109	10	12			1	138
石川・福井				2	8	2				12
東海				7	7	36	3			53
近畿	1	1		5		8	5			20
中国・四国・九州				1		1		1		3
国外										0
合計	9	8	17	145	32	80	12	3	1	307

卒業・修了後の進路、就職状況

●卒業後の進路状況（学部生）（令和7年度）

【看護学部】

（令和8年3月31日現在）

区 分	卒業生		うち県内へ		うち県外へ	
	人数(人)	割合	人数(人)	割合	人数(人)	割合
進 学	23	19.5%	19	82.6%	4	17.4%
就 職	92	78.0%	62	67.4%	30	32.6%
そ の 他	3	2.5%	1	33.3%	2	66.7%
計	118	100.0%	82	69.5%	36	30.5%

●卒業者の就職状況（令和7年度）

（令和8年3月31日現在）

	看 護 学 部	看護学専攻科	大学院看護学研究科	計
就職希望者数	94 人	22 人	1 人	117 人
就職者数	92 人	21 人	1 人	114 人
就職率	97.9 %	95.5 %	100.0 %	97.4 %
うち県内就職率	67.4 %	52.4 %	100.0 %	64.9 %

●就職者の県内定着状況

（人）

年度	県内出身者			県外出身者			就職者 合計			県内就職率		
	県内就職	県外就職	計	県内就職	県外就職	計	県内就職	県外就職	計	県内出身	県外出身	全体
令和7年度	69	9	78	5	31	36	74	40	114	88.5%	13.9%	64.9%
令和6年度	62	7	69	10	40	50	72	47	119	89.9%	20.0%	60.5%
令和5年度	62	6	68	7	38	45	69	44	113	91.2%	15.6%	61.1%
令和4年度	50	2	52	4	30	34	54	32	86	96.2%	11.8%	62.8%

●出身地と就職先所在地（令和7年度）

出身地 \ 就職先	北海道・東北	関東	甲信越	富山	石川・福井	東海	近畿	中国・四国・九州	国外	計
北海道・東北	1									1
関東		4	3	4	1	1	2	1		16
甲信越			5							5
富山				69	3	1		1		74
石川・福井				1	7					8
東海				3		4				7
近畿				1			2			3
中国・四国・九州										0
国外										0
合計	1	4	8	78	11	6	4	2	0	114

●学部・大学院 学科・専攻別就職状況（令和7年度）
【業種別】

	建設業	製造業	電気・ガス・ 熱供給・水道業	情報通信業	運輸業、郵便業	卸売業、小売業	金融業、保険業	学術研究、専門・技 術サービス業	飲食サービス業 宿泊業、	生活関連サービス 業、娯楽業	医療、福祉	サービス業（他に分 類されないもの）	公務（他に分類され るものを除く）	分類不能の産業	計
機械システム工学科・機械システム工学専攻	3	45		2			1	2				1	1		55
知能ロボット工学科・知能ロボット工学専攻		27		16				4							47
電気電子工学科・情報システム工学科・ 電子・情報工学専攻	3	31	2	46	1	1	1	4				1	4		94
環境・社会基盤工学科・環境・社会基盤工学専攻	11		2	2				14					11		40
生物工学科・生物・医薬品工学専攻		53		1									2		56
医薬品工学科		15													15
看護学部、看護学専攻科、看護学研究科				1							113				114
合計	17	171	4	68	1	1	2	24	0	0	113	2	18	0	421

【就職先所在地別】

	北海道・東北	関東	甲信越	富山	石川・福井	東海	近畿	中国・四国・九州	国外	計
機械システム工学科・機械システム工学専攻		10	3	20	4	14	3	1		55
知能ロボット工学科・知能ロボット工学専攻		9	1	20	1	13	3			47
電気電子工学科・情報システム工学科・ 電子・情報工学専攻	1	30	1	37	4	13	7	1		94
環境・社会基盤工学科・環境・社会基盤工学専攻	1	11		18	1	6	3			40
生物工学科・生物・医薬品工学専攻	1	12		30	2	7	3	1		56
医薬品工学科		1		13		1				15
看護学部、看護学専攻科、看護学研究科	1	16	5	74	8	7	3			114
合計	4	89	10	212	20	61	22	3	0	421

産官学連携・地域貢献活動

1 富山県立大学研究協力会の設立と地域連携センターの開所

平成 16 年 4 月、県内産業界の呼びかけにより、本学と産業界の連携を深めることを目的に、富山県立大学研究協力会が設立（R8.3 月末現在 236 会員）。

この動きに呼応し、地域貢献の総合窓口として、地域連携センターを開所。産学連携と生涯学習に関する各種事業を積極的に展開。

2 地域連携センターの活動状況（令和 7 年度）

- ① センター教員 9 名（兼務）、コーディネーター 4 名を配置し、企業からの技術相談、企業ニーズと大学シーズのコーディネートなどを実施。
 - ・センター来所実績 258 企業等
 - ・技術相談 207 件
- ② 地域連携公開セミナー（1 回）の開催
- ③ 公開講座（3 回）、県民開放事業（オープン・ユニバーシティ）、ダ・ヴィンチ祭等の開催
- ④ 各種イベントなどへの大学からの出展等 4 回
- ⑤ 社会人向けセミナーキャリアアップ支援講座（4 コース）
- ⑥ 社会人向けセミナー企業向けオーダーメイド講座（7 社）

3 県立大学研究協力会の活動状況（令和 7 年度）

- ① リエゾンサポーターの委嘱
大学と研究協力会との橋渡し役として、会員企業の技術担当者等をリエゾンサポーターに委嘱（160 名）。
- ② テーマ別研究会の開催
企業ニーズに即した産学官の共同研究開発プロジェクトをめざし、技術談義の場として 6 つの研究会を立ち上げ、講演会などを開催（計 2 回）。
- ③ 講演会、県大教員の奨励研究への助成など

4 その他

- ① 論文準修士コースの開設
地域産業の活性化のため、平成 18 年 4 月、大学院（工学研究科）に、社会人のための「高度専門職業能力養成コース」を開設し、企業経営に必要な MOT（技術経営）等の専門知識の修得により、知的イノベーション能力を向上。
（これまでの入学者数：平成 18 年度 6 人、平成 19 年度 6 人、平成 20 年度 4 人、平成 23 年度 1 人、平成 25 年度 1 人、平成 26 年度 1 人、平成 28 年度 1 人、平成 29 年度 0 人、平成 30 年度 1 人、平成 31 年度 0 人、令和 2 年度 1 人、令和 3 年度 0 人、令和 4 年度 0 人、令和 5 年度 1 人、令和 6 年度 0 人、令和 7 年度 0 人）
- ② 自治体との連携協定の締結
平成 18 年 4 月 13 日、射水市と本学が連携協定を締結し、産業・教育・文化・まちづくりなど、幅広い分野で連携・協力を推進。
射水市と本学との連携協力を機動的に推進するため、連携推進会議の下部組織として「地域協働部会」を設置（平成 25 年 11 月）
また、平成 28 年 10 月 24 日には高岡市、平成 29 年 4 月 18 日には南砺市と連携協定を締結。

国際交流

●学術交流協定を締結している海外大学、研究機関

(令和8年3月31日現在)

国・地域	締結日	提携機関	提携テーマ
中国	H26(2014). 12.24	中国浙江科技学院	中国の動植物、微生物を利用した医薬品や食品の開発に関する共同研究
	H27(2015). 6.17	中国遵義医科大学	酵素触媒の開発及びそれらを用いる有機合成に関する研究
	R8(2026). 1.11	中国瀋陽化工大学(注1)	研究者、学生の交流、共同研究
	R7(2025). 3.31	中国医科大学(注2)	共同研究及びその他の学術活動
タイ	H17(2005). 8.1	プリンス・オブ・ソンクラ大学	有用微生物資源及び植物資源の開発に関する共同研究
	R5(2023). 8.24	チュラロンコン大学	研究者、学生の交流、共同研究
	R5(2023). 11.6	チェンマイ大学	共同研究、国際出版、その他の学術活動
	R5(2023). 12.8	チェンマイ大学	研究者、学生の交流、共同研究
	R6(2024). 11.30	カセサート大学	微生物の機能性を利用した医薬や農業の開発に関する共同研究および研究者や学生の相互交流
	R7(2025). 9.1	ランパーンラチャバット大学	教職員および学生の交流、共同研究
インド	R7(2025). 3.26	アンドラ大学	研究者、学生の交流、共同研究
マレーシア	R5(2023). 8.30	マレーシア国民大学	研究者、学生の交流、共同研究
	R8(2026). 2.4	マレーシア工科大学	研究者、学生の交流、共同研究
スリランカ	R5(2023). 9.11	ウバウエラッサ大学	研究者の交流、実験施設の共同利用
インドネシア	R4(2022). 7.28	タデュラコ大学(注3)	インドネシアにおける環境保全に関する共同研究
	R5(2023). 12.18	ディボネゴロ大学(注4)	海洋生物や海洋微生物から医薬品等に有用な物質の探索に関する共同研究および研究者や学生の相互交流
	R6(2024). 4.3	インドネシア大学(注5)	薬草や微生物等を利用した医薬品等の開発に関する共同研究および研究者や学生の相互交流
ベトナム	H25(2013). 1.9	ホーチミン市工科大学	環境に関する研究の促進
アメリカ合衆国	H10(1998). 10.9	アラスカ大学	ロケット実験による宇宙空間科学及び技術開発の推進
	R5(2023). 2.9	ポートランド州立大学	研究者、学生の交流、共同研究
ドイツ	H26(2014). 8.11	ビーレフェルド大学	酵素触媒の開発及びそれらを用いる有機合成に関する研究
スイス連邦	R3(2021). 3.29	バーゼル大学(注6)	研究者、学生の交流、共同研究
イギリス	R7(2025). 3.31	スウォンジー大学	共同研究

注1：2009年締結済協定の更新

注2：2022年締結済協定の更新

注3：2011年締結済協定の更新

注4：2018年締結済協定の更新

注5：2018年締結済協定の更新

注6：2018年締結済協定の更新

●学生交流協定を締結している海外大学、研究機関

(令和8年5月1日現在)

国・地域	締結日	提携機関	提携テーマ
中国	H26(2014). 12. 24	中国浙江科技学院	特別研究学生交流
	H27(2015). 6. 17	中国遵義医科大学	特別研究学生交流
	R8(2026). 1. 11	中国瀋陽化工大学（注1）	単位互換に基づく学生交流
タイ	H17(2005). 8. 1	プリンス・オブ・ソンクラ大学	特別研究学生交流
	R5(2023). 8. 24	チュラロンコン大学	特別研究学生交流
	R6(2024). 4. 12	チェンマイ大学	学術交流
	R6(2024). 11. 30	カセサート大学	特別研究学生交流
ドイツ	H26(2014). 8. 11	ビーレフェルド大学	特別研究学生交流
スイス連邦	R3(2021). 3. 29	バーゼル大学（注2）	学生交流
インドネシア	R5(2023). 12. 18	ディボネゴロ大学（注3）	特別研究学生交流
	R6(2024). 4. 3	インドネシア大学（注4）	特別研究学生交流

注1：2009年締結済協定（2017.1.11更新）の改定

注2：2018年締結済協定の更新

注3：2018年締結済協定の更新

注4：2018年締結済協定の更新

●外国人留学生数

(令和8年5月1日現在)

	学部 学生	大学院学生		研究生	特別聴講 学生	特別研究 学生	計
		修士	博士				
中国	1 (0)		1 (0)				2 (0)
バングラデシュ			3 (2)				3 (2)
マレーシア	1 (0)	1 (0)					2 (0)
ミャンマー	2 (2)						2 (2)
ベトナム		1 (0)					1 (0)
ガボン	1 (1)						1 (1)
ベナン			1 (0)				1 (0)
パレスチナ		1 (0)		1 (1)			2 (1)
イラン				1 (0)			1 (0)
スイス						1 (0)	1 (0)
合 計	5 (3)	3 (0)	5 (2)	2 (1)	0 (0)	1 (0)	16 (6)

※（ ）内は女性で内数。

財務状況

●貸借対照表の概要（令和8年3月31日現在）

（単位：百万円）

資産の部			負債の部		
I	固定資産		I	固定負債	3,346 (20.2%)
1	有形固定資産	13,575 (82.1%)		長期寄附金債務	67 (0.4%)
	土地	3,257 (19.7%)		長期リース債務	101 (0.6%)
	建物	10,003 (60.5%)		長期繰延補助金等	3,177 (19.2%)
	減価償却累計額	▲3,000 (▲18.1%)	II	流動負債	1,589 (9.6%)
	構築物	911 (5.5%)		運営費交付金債務	61 (0.4%)
	減価償却累計額	▲269 (▲1.6%)		預り施設費	24 (0.1%)
	工具器具備品	5,651 (34.2%)		預り補助金等	94 (0.6%)
	減価償却累計額	▲3,774 (▲22.8%)		寄附金債務	340 (2.1%)
	建設仮勘定	17 (0.1%)		前受受託研究費	95 (0.6%)
	図書	706 (4.3%)		前受共同研究費	43 (0.3%)
	美術品・收藏品	72 (0.4%)		短期リース債務	35 (0.2%)
	車両運搬具	34 (0.2%)		未払金	769 (4.7%)
	減価償却累計額	▲32 (▲0.2%)		未払消費税等	1 (0.0%)
2	無形固定資産	95 (0.6%)		科学研究費助成事業等預り金等	127 (0.8%)
	特許権	23 (0.1%)	負債の部 合計 4,935 (29.8%)		
	ソフトウェア	31 (0.2%)	純資産の部		
	特許権仮勘定	41 (0.2%)	I	資本金	6,614 (40.0%)
3	投資その他の資産	299 (1.8%)	II	資本剰余金	2,559 (15.5%)
	投資有価証券	270 (1.6%)		資本剰余金	5,292 (32.0%)
	長期前払費用	28 (0.2%)		減価償却相当累計額等	▲2,733 (▲16.5%)
II	流動資産	2,564 (15.5%)	III	利益剰余金	2,210 (13.4%)
	現金及び預金	1,916 (11.6%)		目的積立金	867 (5.3%)
	未収金	625 (3.8%)		積立金	1,200 (7.3%)
	前払費用	24 (0.1%)		当期末処分利益	143 (0.9%)
			IV	その他有価証券評価差額金	215 (1.3%)
資産の部 合計 16,533 (100.0%)			純資産の部 合計 11,598 (70.2%)		
			負債純資産合計 16,533 (100.0%)		

●損益計算書の概要（令和7年度）

（単位：百万円）

経常費用		
業務費		
教育経費	1,131	(18.5%)
研究経費	1,030	(16.8%)
教育研究支援経費	305	(5.0%)
教育研究経費小計	<u>2,466</u>	(40.3%)
受託研究費	137	(2.2%)
共同研究費	107	(1.7%)
受託事業費	16	(0.3%)
役員人件費	28	(0.5%)
教員人件費	2,260	(36.9%)
職員人件費	796	(13.0%)
人件費 小計	<u>3,084</u>	(50.4%)
一般管理費	308	(5.0%)
経常費用合計	<u>6,118</u>	(100.0%)
経常収益		
運営費交付金収益	3,449	(55.1%)
授業料収益	1,327	(21.2%)
入学金収益	159	(2.5%)
検定料収益	35	(0.6%)
受託研究収益	132	(2.1%)
共同研究収益	81	(1.3%)
受託事業等収益	18	(0.3%)
寄附金収益	250	(4.0%)
施設費収益	92	(1.5%)
補助金等収益	612	(9.8%)
公開講座等受講料収益	1	(0.0%)
雑益	105	(1.7%)
経常収益合計	<u>6,262</u>	(100.0%)
経常利益	144	
臨時損失	1	
臨時利益	0	
当期純利益	143	
目的積立金取崩額	0	
当期総利益	143	

●外部資金の受入実績

(件、百万円)

年度	受託研究費		共同研究費		奨励寄附金		科学研究費		学術相談		合計	
	件数	金額	件数	金額	件数	金額	件数	金額	件数	金額	件数	金額
令和7年度	36	170	91	88	107	112	106	125	11	4	351	499
令和6年度	34	97	94	96	114	148	133	152	18	8	393	501
令和5年度	33	86	92	105	104	111	129	143	18	10	376	455
令和4年度	36	122	89	113	103	99	131	143	13	8	372	485
令和3年度	33	136	87	105	95	94	130	178	10	3	355	516
令和2年度	37	129	75	81	123	112	109	177	10	3	354	502
令和元年度	34	121	68	79	128	146	94	153	12	4	336	503
平成30年度	35	83	56	60	129	110	75	160	5	1	300	414
平成29年度	28	128	56	53	114	104	77	156	7	1	282	442
平成28年度	26	281	60	63	104	85	63	111	4	1	257	541
平成27年度	16	290	71	84	79	53	54	102			220	529
平成26年度	21	292	51	58	67	54	49	72			188	476
平成23年度	24	177	52	63	64	53	36	77			176	370
平成18年度	26	100	41	40	98	65	30	63			195	268
平成13年度	6	31	5	6	51	35	18	25			80	97
平成8年度	5	40	3	3	53	49	29	40			90	132
平成3年度	1	1	1	5	30	23	7	8			39	37

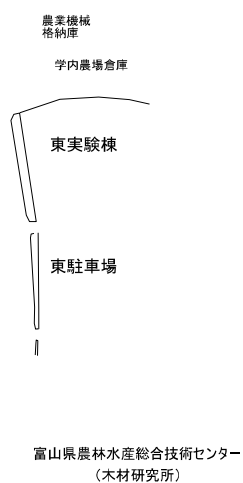
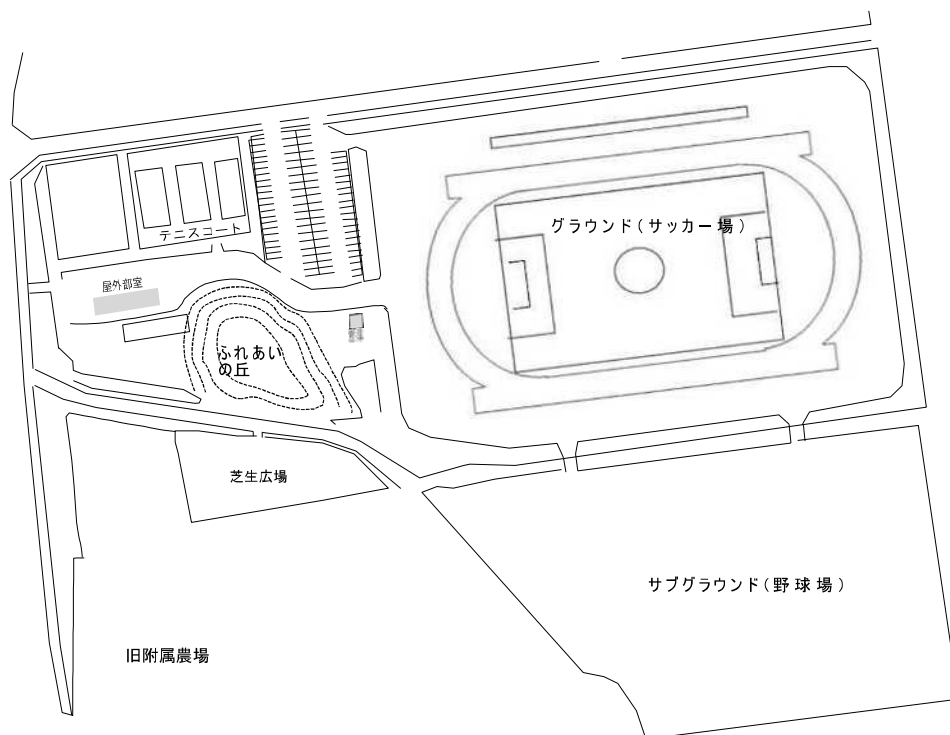
○H26～29年度の受託研究費には、ERATO「浅野酵素活性分子プロジェクト」に関する研究費が含まれています。

学内マップ

1 射水キャンパス施設全体図

4





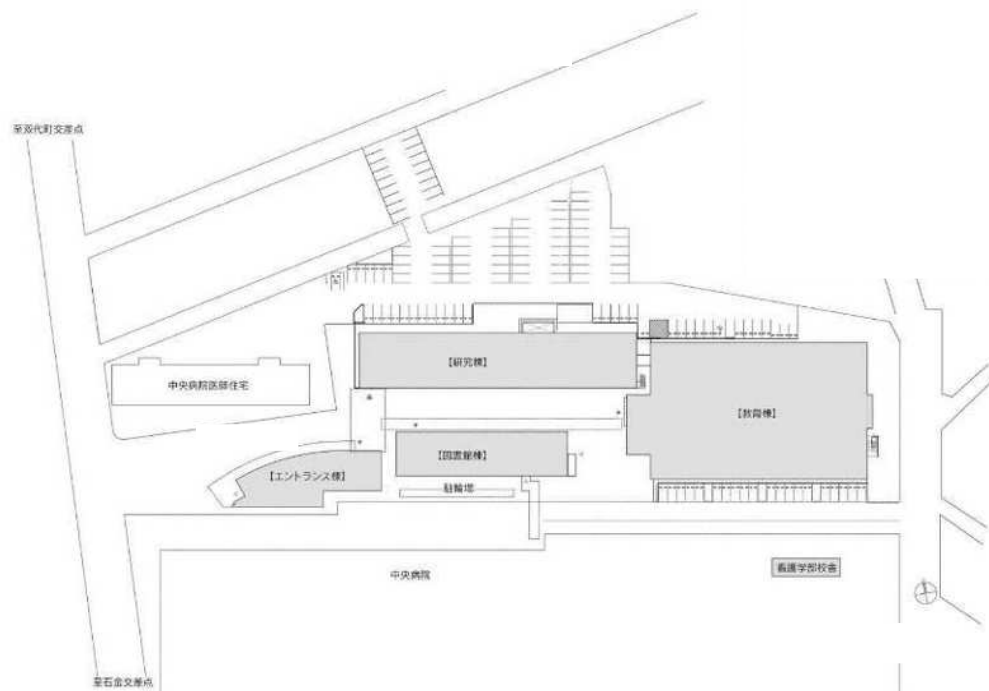
<アクセス>



住所:射水市黒河5180

あいの風とやま鉄道小杉駅南口から、徒歩約25分(約2km)、
または射水市コミュニティバス「7.新湊・小杉線」に乗車約6分。

2 富山キャンパス施設全体図



<アクセス>



住所：富山市西長江2丁目2番78号

JR富山駅、あいの風とやま鉄道富山駅から、地鉄バス「中央病院方面」約20分、または地鉄電車「栄町駅」下車後徒歩約7分。

最近の特記事項

1 大型競争的研究費の採択

○本学鎌倉講師（生物工学科）が科学技術振興機構（JST）の戦略的創造研究推進事業（さきがけ）に採択（平成 25 年度） **【研究期間 平成 25 年度～平成 28 年度】**

さきがけは、研究領域の責任者である研究総括が、複数の個人研究者を総括し、研究領域を「バーチャル・ネットワーク型研究所」として運営するもので、「生体における動的恒常性維持・変容機構の解明と制御」の研究領域において、鎌倉講師の研究課題「女王蜂における寿命制御機構の解明」が採択された。

○本学浅野教授（生物工学科）が科学技術振興機構（JST）の戦略的創造研究推進事業（ERATO）に採択（平成 23 年度） **【研究期間 平成 23 年度～平成 29 年度】**

個人型研究資金では国内最大級の事業で、研究費総額 14 億円程度、事後評価では最高評価を得た。

これまでの採択者には、ノーベル化学賞の野依良治氏や、青色発光ダイオード開発の中村修二氏など世界で活躍する研究者が名を連ねる。

○本学下山学長、塚越講師（知能ロボット工学科）、野田講師（知能ロボット工学科）の研究グループが新エネルギー・産業技術総合開発機構（NEDO）の「IoT 社会実現のための超微量センシング技術開発」に採択（令和元年度） **【研究期間 令和元年度～令和 5 年度】**

社会課題解決と新産業創出を両立する Society5.0 の実現を目指し、超微量センシング技術に関するテーマとして「血中成分の非侵襲連続超高感度計測デバイス及び行動変容促進システムの研究開発」が採択された。

○本学長井教授（医薬品工学科）の研究グループが日本医療研究開発機構（AMED）の「産学連携医療イノベーション創出プログラム」基本スキーム【ACT-M】に採択 **【研究期間 令和 2 年度～令和 4 年度】**

アカデミア発の「技術シーズ」を産業界に円滑かつ効果的に移転することで新しい医療の実用化を目指すための産学連携による研究開発を支援するもので、研究課題「自然免疫制御による全身性エリテマトーデス治療薬の創製」が採択された。

2 各種受賞

○本学教員が紫綬褒章（平成23年度春）を受章

浅野教授（生物工学科）が、応用微生物学分野で、微生物や植物由来の新しい酵素を見出し、改変する等、酵素の新しい用途を発見するなどの功績により、平成 23 年 4 月 29 日付けで紫綬褒章を受章。

○本学教員が第 33 回（平成 28 年度）とやま賞を受賞

野村講師（生物工学科）が平成 28 年 5 月に「有用植物二次代謝産物の生合成機構の生化学的解明とバイオプロセスによる物質生産への応用」で、第 33 回とやま賞（学術研究部門）を受賞。

○本学教員が平成 29 年度科学技術分野の文部科学大臣表彰若手科学者賞を受賞

古澤講師（教養教育）が平成 29 年 4 月に「エピゲノム修飾による腸管制御性 T 細胞誘導制御の研究」で、平成 29 年度科学技術分野の文部科学大臣表彰若手科学者賞を受賞。

○本学教員が第 34 回（平成 29 年度）とやま賞を受賞

竹井教授（医薬品工学科）が平成 29 年 5 月に「植物の活用によるナノ・マイクロ微細加工用機能性高分子材料の創出」で、第 34 回とやま賞（科学技術部門）を受賞。

○本学教員が第 35 回（平成 30 年度）とやま賞を受賞

山村准教授（教養教育）が平成 30 年 6 月に「元素の特性を活用した高分子複合体の設計・開発」で、第 35 回とやま賞（学術研究部門）を受賞。

○本学教員が第37回（令和2年度）とやま賞を受賞

遠藤洋史准教授（機械システム工学科）が令和2年5月に「表界面制御技術を駆使した高分子系多機能性マテリアル群の開発」で、第37回とやま賞（科学技術部門）を受賞。

○本学教員が第38回（令和3年度）とやま賞を受賞

小山靖人教授（医薬品工学科）が令和3年5月に「ペプチドの交互共重合法の開発と生体材料の創製」で、第38回とやま賞（科学技術部門）を受賞。

○本学教員が第2回富山第一銀行奨学財団賞（令和5年度）を受賞

古澤之裕准教授（医薬品工学科）が令和5年7月に「機能性素材による腸内細菌を介した免疫機能の調節と疾患予防」で、第2回富山第一銀行奨学財団賞（特別賞）を受賞。

○本学名誉教授が瑞宝中綬章（令和7年度秋）を受章

浅野泰久名誉教授が、農芸化学、応用微生物学、応用酵素学の分野において学術振興に寄与し、またその優れた学問的知見に基づいて、我が国のバイオテクノロジー（微生物や酵素の開発と利用）の発展に尽力し、優れた業績をあげた功績により、令和7年11月3日付けで瑞宝中授章を受章。

3 国際交流

○瀋陽化工大学との国際学術協定及び単位互換に基づく学生交流に関する協定

平成23年1月に両大学で学術交流協定及び単位互換に基づく学生交流に関する協定を締結。23年4月から本学として初めての取組みとなる学生の交換留学を開始。

○バーゼル大学との学術交流に関する協定

平成30年3月に両大学で学術交流に関する協定を締結。バイオ医薬品や製薬技術分野を主とした国際共同研究や教職員の派遣、学生の交換留学等で学術交流を促進。

○ポートランド州立大学との学術交流に関する協定

令和4年8月、県オレゴン訪問団が派遣され、富山県知事とオレゴン州知事が「経済分野等における交流と協力に関する覚書」を取り交わし、本学とポートランド州立大学との学術交流協定締結に向けた支援を行うことが合意されたことを契機に、本学とポートランド州立大学との学術交流を深めるため、令和5年2月に学術交流協定を締結。

○アンドラ大学との学術交流に関する協定

令和6年12月、富山県知事がインド・アンドラプラデシュ州を訪問し、経済、文化、学術交流などに関する交流協定を再締結した。これを契機に、本学とアンドラ大学との学術交流を深めるため、令和7年3月に学術交流協定（MOU）を締結。

○シリコンバレー・アントレプレナー研修

起業家精神を養成するための「スタートアップ特論」の授業を履修した学生を対象として、令和6年度から始まったプログラム。多数のリーディングカンパニーを生み出したシリコンバレーで、現地の企業・大学関係者との意見交換や成果発表を通じて、実践的なアントレプレナーシップを学ぶ。

○マレーシア工科大学語学研修

英語の学習意欲や国際社会に対する理解・関心を深めるため、令和6年度から実施。マレーシア工科大学の学生寮に滞在しながら、英語やマレーシア文化などを学び現地学生との交流を行う。

4 各種セミナー・交流会等

① 県立大学短期大学部閉学・県立大学起源50周年記念式典・記念講演会の開催

平成24年3月末に短期大学部が閉学となるとともに、県立大学が県立大谷技術短期大学の開学から数えて50周年の節目を迎えたことから、県立大学が、これからも地域に貢献し全国に誇れる大学として、更に発展、飛躍していくというメッセージを発信するため、平成24年8月にアイザック小杉文化ホールラポールで開催。

② サマースクールの開講

平成30年6月に発足した県内の産学官が連携して医薬品産業の振興や専門人材の育成と確保に取り組む「くすりのシリコンバレーTOYAMA」創造コンソーシアムの事業の一環として、全国の学生を受講生とする富山県立大学サマースクール<バイオ医薬品コース>を令和元年8月から実施。

③ 県立大学開学30周年記念式典・記念講演会の開催

30周年の節目を迎え、県立大学が、これからも「地域に貢献する知の拠点」として、教育と研究でさらなる飛躍を遂げるというメッセージを発信するため、令和2年10月にアイザック小杉文化ホールラポールで開催。また、30周年記念誌として、『富山県立大学 30年史』を発刊。

5 学術協定の締結

① 独立行政法人港湾空港技術研究所と連携・協力の推進に関する協定書を締結

平成27年3月に、両機関の研究開発能力と研究資産等を活かし、先進的・実用的な研究開発及び次世代を担う人材の交流・育成を目的とし、北陸3県の大学では初めてとなる連携・協力の推進に関する協定を締結した。

② 独立行政法人土木研究所との連携・協力の推進に関する協定書を締結

平成27年3月に、両機関の研究開発能力と研究資産等を活かし、先進的・実用的な研究開発及び次世代を担う人材の交流・育成を目的とし、北陸3県の大学では初めてとなる連携・協力の推進に関する協定を締結した。

ドンドン マスマス 充実する教育環境！

令和8年4月供用開始

○情報工学研究棟の新築

令和6年4月に開設した情報工学部や、令和8年4月に設置した情報工学系大学院が使用する情報工学研究棟を新しく建設しました。

この新校舎には、80人収容の「講義室」、ビッグデータを収集・分析する演習を行う「データサイエンス演習室」、エネルギー効率の向上に寄与する「太陽光パネル」等の施設や設備を備えています。また、1階には、産業を変革するグリーントランスフォーメーション(GX)に取り組むことにより、地域社会や人々の生活を支援するための人材教育や研究の推進を目的とした「グリーン×AI教育研究拠点」が設置されています。



外観



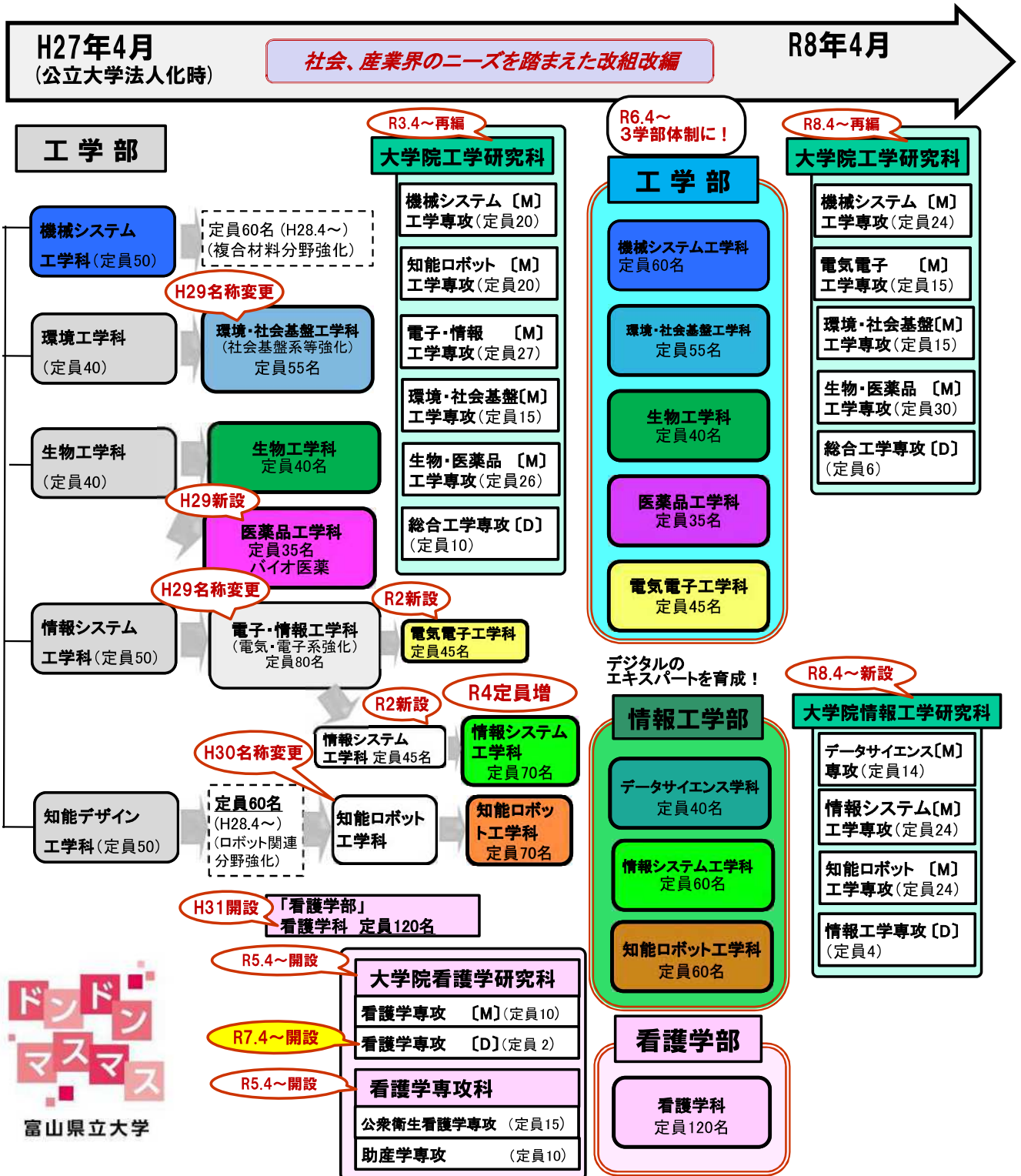
内観



通路からグリーン×AI教育研究拠点を望む

富山県立大学の拡充計画「地域に貢献する、より魅力ある大学へ！」

富山県立大学では、県内産業等に求められる人材育成と若者の定着に貢献し、一層魅力ある大学となるよう、学部学科の拡充・新設、大学院の再編を進めてきました。今後は、デジタル化の進展に応じた人材、専門看護師など高度な看護人材等の育成に向けた取組みを進めます。





公立大学法人富山県立大学

事務局 経営企画課
〒939-0398 富山県射水市黒河5180
TEL (0766) 56-7500 [代表]

令和8年7月発行